

在宅医療ケア部会 会議録

(平成30年度 第5回)

1. 日 時 平成31年1月8日(木) 17時半～19時半

2. 場 所 飯塚市役所 2階202会議室

3. 出席者(順不同/敬称略)

【飯塚病院】大矢崇志、田中祥一朗、後藤裕美【穎田病院】金弘子【アップルハート訪問看護ステーション】上野美津江、【嘉穂鞍手保健福祉環境事務所】小阪尚子【桂川町健康福祉課健康推進係】樋口智絵【飯塚市健康スポーツ課保健センター係】藤田奈緒【嘉麻市役所健康課】藤井みはる【多機能型児童発達支援事業所ひばり】廣瀬竜也【児童発達支援センターこどもの森・多機能型児童発達支援事業所森の子】許斐孝史【機能強化事業ピーサス】弥永由津【嘉麻市】福田津紀正【基幹相談支援センター】藤嶋勇治、小出悦子、彦田純子

4. 概 要

1) 研修会企画について ※アンケート結果配布

12月21日の振りかえり

テーマ:「摂食・嚥下・口腔ケアに関するレクチャー」

(飯塚病院歯科口腔外科:中松先生/伊藤歯科:伊藤先生/北九州市立総合療育センター歯科:山本先生)

参加者:72名の参加(院内33名、院外29名:23事業所)

(意見交換)

- ・アンケート結果からは好評だったことが伺える。今後の研修希望には今回のように実技を希望される方が多い。現場職員は個別のケースで困っていることを相談したいが個別の事例を通して具体的に研修を実施するのは個人情報兼ね合いから難しさもあるが、工夫してできるだけ地域の支援者のニーズにこたえていく。
- ・事業所が相談したいケースがあり、後半は講義と参加者による実技というスタイルでの指導を受ける事にご協力いただける当事者ご家族がいらっしゃるならば事業所経由で参加を募り、同様の研修を行うのも良いかもしれない。
- ・今後は参加しやすいようGWの実施方法に改善・工夫の余地あり。
- ・職種を限定せず参加できてよかった。現場の職員が参加しやすい時間帯の開催が良い。
- ・医師との距離が近づき相談しやすい関係づくり(今後の連携のきっかけ)にも効果的であった。
- ・今回のテーマでの研修は事業所職員からのニーズも多く、今後も継続的に行っていくと良い。こどもの発達段階に応じたアプローチは今後も北九州市総合療育センターの山本先生よりご指導頂けるとの事。

今後の予定:

- ・今年度は3月に開催予定。講師には西日本新聞社編集委員:三宅大介氏(記者/当事者の親)を検討中。父親としての目線で、また記者としての目線で、医療的ケアが必要な方の在宅生活の実態や課題についてお話し頂いてはどうか。
- ・次年度、大きな研修を2回、小さな研修を何度か開催していく。(事例検討/職種限定等のスタイルで)。部会と共催するに当たり、研修の内容や案内方法などを今年度中に改めて見直し次年度の準備をしていく。

2) 連携ツール開発について

現在ツール開発検討会ではサポートファイル(案)が出されており、どの様な内容にしていくか、どの様に活用していくかを多職種(医師・訪問看護師・通所看護師・相談支援専門員)で話し合っている。活用の効果として、地域の事業所によってスキルにばらつきがある中で、スキルの標準化を図り、どの事業所を利用しても一定の支援が行える様になることや、多職種間で連携が図り易くなり、適切にリスク管理に

繋がるようなツールになり得ること等が目標。まだまだ検討の段階。ある程度形にしたのちに実際に使ってみて改良し、完成させていくと良いとの意見が出されている。

(意見交換)

- ・現場で使っているアセスメントを持ち寄って、皆が重なっているところを集約してはどうか？
- ・サポートファイルは家族が持つもの。基本的な情報と、相談員のアセスメント、事業所がチェックするもの、すべて差し込むのか？
- ・成長していく過程で、ADLや発達面などの変化を追っていけるものが欲しい。
- ・口腔機能についても成長と共に働きかけが必要で、食事形態も変化するなかそういった視点で関わらなければ9歳になっても離乳食の様なものしかとれないケースにも触れショックだった。そういった口腔機能など成長を支える重要な部分がアセスメント項目に入っているのも良いのでは？
- ・医療的ケア児は医療機関が関わっていると言う事で市の健診を行っていないケースも多い。就学前に情報がなく保健師も困ることがあるため、サポートファイルのなかに健診状況を残し、発達状況を把握出来るようにしたい。
- ・成長と共に変化するもの(例：口腔機能など)発達の側面が記載されていくと良い(医療情報だけでなく)発達していく過程でチェックしていく(○つけていく)などの項目もあると良いかも
- ・摂食嚥下など、通所先でも最低限押さえておかないといけないものは、アセスメントをとって家族に渡し、皆で共有したらよいのではないかと。
- ・検討会でも病院・訪問看護・通所看護師で医療連携ができるシートがあると良いと言う話題が出ている。
- ・リスク管理と発達面と両方押さえておきたいのだろうけど、できるだけミニマムにしたほうが良い。
- ・情報をとっても、いつまでも古い情報のままでは意味をなさない。更新していかないといけない。例えば誕生日に更新するなどの目安で。
- ・医療ケア児になると項目も増える。内容が多ければ多いほど、気軽に更新できるものが良い。
- ・うまく活用するにはどの様なポイントで使うかの目的や効果がはっきりしていると良い。
- ・例えばルーズリーフのように差し込みやすいスタイルが良い。
- ・大人でも活用できるものが良いのでは。

⇒これら部会委員からの意見を今後の検討会に反映させていく。

3) 災害対策について

①防災対策についての勉強会について

年度末は相談支援専門員の出席も業務上困難な方が多いと言う事で5月頃に延期を検討している。少なくとも昨年水害の起きた7月より前に開催したい。

②個別の準備(災害時個別避難計画書の作成)について ※資料

昨年12月10日に初回のコアメンバーによる話し合いを行った。当事者に参加協力を呼びかけ、コアメンバーと何度か自宅訪問なども交えて災害時対策を話し合う。その際に三重県小児科医会より示されている災害時対応マニュアルと災害時対応ノートを活用しながら災害への備えについて考え、最終的に嘉穂鞍手保健福祉事務所が作成している災害時個別避難計画書を必要に応じ改良し完成させる。その過程ではコアメンバーだけでなく実際に支援に関わる方々を交えながら避難対策を行う。この取り組みを、2市1町それぞれの地域のケースを交え行っていく予定。初回は飯塚市のケースで家族より了解を頂いているが、更に詳しい説明と部会からの正式依頼(部会より当事者ご家族に協力依頼文をお渡しする)を1月中に行う予定。

4) 「第3回：医療的ケアを必要とする方の地域支援に関する意見交換会」企画について

第3回意見交換会(今年6月頃開催予定)では、部会での取り組みを当事者ご家族および支援機関の方々に報告し、グループワークでは部会の取り組みに対し更に皆さんから意見を頂き、部会運営に活かし

ていく。今回は当事者ご家族、地域の医療機関、訪問看護ステーション、医療的ケア児者に関わる福祉サービス事業所、相談支援事業所、特別支援学校、保健師（県・市）らに参加を呼び掛ける。

5) その他

■飯塚病院小児病棟 実習受け入れについて

利用方法の確認：飯塚病院に関わっている方（外来・リハビリ・レスパイト入院など）。他の病院が主治医であってもレスパイト利用者であれば実習受け入れ可能。基本にご本人が入院しているタイミングで実習を行う。

案内方法：訪問看護師には訪問看護連絡協議会（1月・2月・4月に開催予定）で紹介する。福祉サービス事業所には6月の意見交換会で紹介する。

6) 次回検討内容

⇒研修会企画部門：3月の研修企画について

⇒ツール開発部門：経過報告（サポートファイル形式の連携ツールについて）

⇒災害対策部門：経過報告（防災対策についての勉強会企画／メンバーによる個別計画書作成の進捗）

⇒意見交換会の企画（6月開催を目指して）